

ございますが、三七・五％。それから小学校合計でございまして、教職員数百六十九名中九十二名でございまして、パーセントといたしましては五五・四％。

中学校でございますけれども、一中でございまして、教職員数三十七名中十四名が組合員でございまして、加入率は三七・八％。第二中学校でございまして、三十七名の組合員数十五名で四〇・五％でございまして、三中でございまして、教職員数二十六名のうち七名が組合員数で二六・九％。中学校でございまして、人数は百人で組合員数三十六人で、三六％。

小中学校合わせますと、教職員数二百六十九名中百二十八名で、四七・六％でございまして、

なお、前回の六十年の三月の定例会に御答弁申し上げました小学校の教職員数百八十名中、組合員数九十五名で加入率が五二・八％でございました。現在の教職員数は当時より十一名少なくなっている中で、組合員数は三名減少しておりますが、加入率では教職員数の減少によりまして一・六％の増となっております。

また、中学校におきましては、教職員数九十五名中組合員数五十二名、加入率五四・七％でありましたが、現在では教職員数は当時より五名増加する中で、組合員数は十六名減少し、加入率では一八・七％減少ということでございます。以上のような組合員の状況でございます。

○建設部長（森田 進君） 自席からお許しいただきます。

道徳教育に関連いたしまして、公園の落書きの関係でございますが、確かに公園は、落書きと言わず、あるいはトイレのドアの破損であるとか、あるいは蛇口の問題だとか、それから公園の照明灯だとか、そういったものがいたずらによる破損と、そんなふうなことがかなり多いわけでございまして、これらについてはできるだけ早い時期に修繕をしますと、そういう方法をとっているわけでございまして、特に落書きの関係につきましては最近、御案内のようにペイントによる落書きと、そんなふうな形でなかなか水で落とすとかそういうふうにはできないわけでございまして、実際の補修方法としては同じペイントを使いまして補修をしていると、そんなふうなこともございます。そんなことで、できるだけ早くそういったものを発見をいたしまして、修繕なりあるいは落書きを消すと、そういう方法をとらなさいいけないわけでございます。若干御指摘のように遅れている面があるようでございますが、できるだけ速やかにそういった点の処理もできるように心がけていきたいと、そのように思っております。以上でございます。

○議長（村尾栄次君） 午後一時まで休憩いたします。

午前十一時五十二分 休憩

午後 一時 開議

○議長（村尾栄次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○八番（林田 武君） 自席から再質問をさせていただきます。

国際都市福生市についてであります。市長さんの御答弁の中で、福生市を国際都市にしたい、横田基地がある福生であるから、福生を、基地を生かしたユニークな国際都市をつくらなければならないという考え方は十分わかりました。

ところで、お聞きしたいのは、では福生市はそのために一体どうするかということでありまして、国際都市福生を目指し、それを福生の活性化として大いに生かしていこうというならば、具体的に行政施策の上で一歩踏み出さないことには絵に書いた餅であるわけで、手をこまねいて何もしなければ、何も考えなかったと同じことでもあります。石川市長、まさか自然の成りに任せておけば国際都市福生ができるとは考えていないと思います。いろいろな方法があるかと思いますが、石川市長がまだ市長になられる前ですが、ことしの五月の二日、国道十六号武蔵野商店街通りに、東京都のモデル振興事業として、カラー舗装道路とともにフレンドシップパークが完成して、盛大に竣工記念パーティーが行われましたのは皆さんも御承知のとおりであります。副知事や横田基地司令官など御出席なされました。日米触れ合い公園ができたことであり、これから一層国際色豊かな商店街として発展していきたいというのが、首席された皆様のだれもの御意見でございました。横田基地と接する武蔵野商店街としては、基地のまち福生としてユニークな国際商業都市をつくらなければならないという気構えであるかと思えます。基地と、それに接する商店街を中心に国際都市として育てていくという考え方、それも大事なことでありますし、施策の一つとして当然考えられる方法だと思います。

また、先ほど石川市長の御答弁の中にＪＣの話が出てまいりましたが、その話も少しさせていただきました。石川市長もことしの七月七日、福生青年会議所の主催で福生市の活性化と国際交流の推進という会合が行われ、石川市長も御出席なされ、関心を示されたとお聞きしております。日米貿易拡大促進委員会の方が講演され、新潟県中条町がア

アメリカの州立南イリノイ大学の分校を誘致し、町の活性化を図った成功例としてのお話でございました。私も先日、赤坂にあるその日米貿易拡大促進委員会に伺って、お話を聞いたり資料をいただいていたわけですが、中条町は大したものでもあります。分校を誘致するに当たり土地が必要でありますけれども、大学をつくるにかかった十九億円は、新潟県で六億円、町が四億円、企業が九億円と出資して、もう完全にその十九億円はペイされたそうであります。大学の運営費はすべて学校持ちで、今二千人の生徒がいるそうでございますが、アメリカから来た学生は今五百人ぐらいで、あとは日本人なんだそうですが、英語のできる学生として企業から引っ張りだかだと、そんなお話でございました。中条町のタクシーの運転手さんなども、夜英会話の学校に通って勉強しているというお話も伺ったりいたしました。中条町は、町全体が国際色豊かになり、それが町の活性化として大変なものだそうであります。

また、姉妹都市の提携ということも、議会で何回も取り上げられております。六十二年の九月の議会でも宮沢議員が、立川市や青梅市の例を挙げまして姉妹都市の質問をなさっております。青梅市が西ドイツのポツパルト市と姉妹都市を提携しているということは御承知のとおりであります。ことしなどは青梅市の夏の花火大会にポツパルトの市長がまいりまして、まことに国際色豊かだと、そのようにお聞きしております。日常の交流もなかなか盛んで、市民が行ったり来たりして姉妹都市を有効に生かしているわけがあります。中条町も、南イリノイ大学のあるカーボディール市と姉妹都市を結んでいるわけがあります。

横田基地の中に、アメリカ州立メリーランド大学の分校があることは御承知のとおりであります。メリーランド大学はアメリカの六大学の一つと言われ、二百年の伝統を持つ有名な大学であります。アメリカ政府に委託され、基地の中にあり、基地の家族だけが今現在通っているわけですが、現に分校として横田基地にあるわけがあります。そのメリーランド大学の本校があるのが、メリーランド州ボルチモア市ですが、どうですか、ここで御提案申し上げるんですけれども、ボルチモア市と姉妹都市を結んではいかがなものでしょうか。ボルチモア市と姉妹都市というのは一つの提案でございますけれども、いずれにしても姉妹都市は国際化の大きなインパクトとなると思うのであります。横田基地、メリーランド大学、そしてボルチモア市という図式も、大いに考えられることだと思うわけがあります。いろいろ試案を申し上げましたが、くどいようでございますけれども、横田基地があるというだけで国際化といっても、国際都市福生とはいかないだろうと思うわけがあります。石川市長に今一度お伺いいたしますが、具体的に一

歩前進する考えはあるかどうかお伺い申し上げます。

次に、市長の諮問機関でございますけれども、シンクタンクを考えてみるとの御答弁をいただき、ぜひ早く実現していただきたいと思えます。何度もくどいようでございますけれども、私は市長の役目の大半は、福生の財政基盤の確立を図ることであり、財政力を豊かにすることだと思っております。福生市がまさに頼りにしている防衛補助も、昭和五十六年から防衛庁の総予算の枠が二百五十一億五千万円と変わらず、物価の上昇から換算するとむしろマイナスシーリングというのが現状であります。その限られた防衛予算の中から、福生市は、石川常太郎元市長さんも田村前市長さんも、そして現石川市長さんも大変な御努力で、福生市へ交付金や補助金の獲得のために、それは並々ならぬ御努力をされていることは、本当に感謝に堪えない次第であります。しかし、防衛補助金も、今福生市では法改正を含めて新しいメニューの開発に頭を痛めているわけでありまして、あせりさえも感じるというのが現状であります。今後は少しでも自分たちの力で財源をつくる方法を模索していかなければならない、それは福生に与えられた大きな使命だと思えます。そのためのプロフェッショナル、シンクタンクを期待しているわけがあります。これは要望いたします。

続きまして、学校教育であります。道徳教育についてでございますが、あいさつをするということは、もっと積極的に学校教育に取り入れていただきたいと思えます。前にもこの議会で申し上げましたけれども、五十九年の総務委員会でも、私も総務委員が鹿児島県の川内中央中学校へ視察に行ったことがあります。その先生、生徒のあいさつの見事さを、ぜひ福生の小中学校で取り上げてもらいたいと議会でお願ひしたことがあります。しかし、その後熱心に行われたという形跡が見られないわけがあります。川内中央中学校では、先生生徒が一体となって見事な人間教育をしております。校長先生を先頭にいたしまして学校教育の中に礼儀、あいさつが自然に取り入れられておりまして、訪れました私どもに対しまして、生徒たちがどこでも、どんな場所でもこんなにちはとあいさつする。これこそ私は教育だと思えます。もちろん、そのことは福生市の生徒でもできるはずであります。福生市の教育姿勢の中で、まさかあいさつができないのは世の風潮であるとか、あきらめたり、しょうがないとか、そうは思っていないと思えますけれども、礼儀とかあいさつを真剣に学校教育に取り組んでいっていただきたいと思えます。

学校教育は、知と徳と体の教育をする場所であると思えます。どれが欠けてもいけないわけがあります。その徳と

いうことでございますが、人を尊敬する心、ありがとうという感謝の心、お年寄りや弱い者をいたわる心、先祖や両親に対して敬う心、こういうことを教育の現場で教育していくことは、極めて大切なことだと思っております。それにはまずあいさつから始めたいかかと思うわけでありまして、真剣にそのあいさつを教育の中に取り込んでいけば、非行やいじめの問題もおのずから解決するんじゃないかと、そのようにも思うわけでありまして。

そこで、市のトップとして石川市長のお考えもお聞きしたいんでありますけれども、市長もこれからは物の豊かさよりも心の豊かさの時代にしていきたいという、そういった御発言もなされておりますので、こういった方面から市長の御意見をお伺いしたいと思います。その後、きょうは教育長が御不在でございますので、教育次長さんの方でひとつ決意のほどをお伺いいたします。

それと、落書きのことなんですけれども、かつて私は、福生の中央図書館のレファレンスの学習机にもいかがわしい落書きがしてありまして、そのときは館長さんに御注意を申し上げまして後日消してもらったと、そんなこともあるんですけれども、確かに、書く、消す、また書くというイタチごっこのような、そんなていはいはあるんですけれども、ひとつ市側といたしましては根気よく、書いたら消す、そういった作業をしていただきたいと思えます。一ヶ月も二ヶ月も放置しておくということは、やはり美観上の上からも教育の上からも決してよくないことだと思っております。これも御要望いたします。

次に、通学区域の見直しでございますけれども、ときが立ちますと生徒の数も流動的になります。先ほど来も控え室で大分お話が出てたんでございますけれども、例えば第一小学校であります。青梅線の以西でありますね。すなわち本町の一町内から六町内までの生徒数が極めて年々少なくなつて、ほとんどの生徒が青梅線を越えて第一小学校に通う。遠い人は八高線も越えて通う、そんな現状もあるわけでございます。通学区域の見直しも、ひとつ早急に検討していただきたいと思えます。また、町会で二つの学区に分かれてしまふということも、PTAから苦情が来ております。と申しますのは、教育はやはり地域と学校と家庭の三位一体でやってこそ本當の教育でありまして、いろいろな地域の行事に二つの学校に分かれてしまふというのはなかなかやりづらいというお話も聞きますので、これもなかなか大きな町会もあつたりして大変なんですけれども、ひとつ検討していただきたい、そのように思います。これも御要望でございます。

それから、国旗の掲揚と国歌の斉唱でございますけれども、ことしの七月の二十六日、文部省で学習指導要領を改定し、ことしの十二月に告示されるというお話でございます。その中で、小中学校の国旗の掲揚と国歌の斉唱も、従来の「望ましい」から明確になるよう表現を改めるというようなことであります。福生市の小中学校も、徐々にでありますけれども、入学式、卒業式に実行されつつありまして、学校側の御努力に対して敬意を表する次第であります。しかし、先ほど御答弁いただきました内容をお聞きいたしますと、学校によってさまざまでございます。第一小学校は、百年の伝統があるからというわけではないんでしょうけれども、一年生の入学式に国歌の斉唱というのは無理かもしれませんけれども、六年生の卒業式にはちゃんと国歌を歌っておられる。国旗もきちんと掲揚している。それが卒業して福生第二中学校に行くと、入学式にも卒業式にも国歌を歌わない、これでは困るわけでございます。ぜひ全校とも第一小学校に足並みをそろえてもらうよう、心からお願いを申し上げる次第であります。このことにつきまして、教育委員会として校長会等で強く押し進めていただけるか、決意のほどをお伺いいたします。

続きまして、教職員組合でございますけれども、この前の議会でも申し上げましたとおり、先生方が仲間をつくったりグループをつくったり、あるいは組合をつくったり、そのこと自体に文句を言うわけではございません。法にのっとったものであれば、決して否定するものではありません。ただ、私の受ける実感として、またPTAの親御さんたちの感想として、西教組の行動がどうも政治闘争に走ったり、ストライキはする、反政府、反体制というような形で、社会主義社会の実現のための組合というようなことではまことに困るわけでありまして、先生はいかなることがあっても中立でなければならぬわけで、右であつても左であつてもいけないわけでありまして、教育者は聖職でなければならぬのであります。教職員組合に加入されている先生すべてが過激な先生とは申し上げませんが、現に教職員組合に加入されている先生と意見の交換などをいたしますと、本音と組合の建前を聞いたりますけれども、ぜひともその過激な政治闘争に走るような、そういった先生方にはひとつ教育委員会としてもきちんと目を配らせていただいて、学校教育は極めて中立であるということをお教えていただきたいと思います。これも、今後の課題として教育委員会に要望とさせていただきます。

以上で二回目の質問とさせていただきます。

○市長（石川彌八郎君） 林田議員さんの再質問に対して御答弁をさせていただきます。

○国際都市福生というものをどうやってつくっていったらいいのかと、こういったようなことではないかと思うのでありますが、今、目下職員がこの件についてプロジェクトを組んで研究しております。やがてその報告の段階は近々であろうかと思えます。どんなような内容を検討しているか、実は私よくわかりませんが、しかし、いずれにいたしましてもハードとソフトがやはりあるはずでございます。

ハードという面になりますと、どういうことかと言え、やはり米軍ということになりますけれども、横田基地とそれから例えば福生市ですか、その関係から、つまり防衛等によってのお願いすることによって何らか国際的な、例えばメニューを開発して国際交流的な建物を建てるとか、そんなようなものが私はハードだと思っております。

それからソフトということになれば、例えばの話が、昨今はやっているホームステイということがありますけれども、例えば横田基地の家族とそれから福生市民とが、やはり、ファミリーステイと申しますか、ホームステイと申しますか、そんなような方法を取るということも一つの方法ではないかと思うんであります。既に、横田にはそのホームステイのキャップが決まったそうですけれども、大佐だそうですけれども、そしてともかく福生の皆さんやりましよう。そんなような話がございます。それからその、当然そういったような交流が重なっていきますれば、姉妹都市という問題も出てきますでしょうし、ということになりますと、やはり今度は公共設備に、例えば英語の表示をするとか、そういったようなこと、あるいはいわゆるそういった環境をつくると申しますか、そういったようなこともやはり行われていくんではないかというふうに思うわけであります。いずれにいたしましても、そんなようなことで国際理解や交流活動として、外国文化の理解や教育、市民等の海外派遣、そういったようなものも出てくるんではないかと思えます。

いずれにいたしましても、今後そんなようなことで十分に検討して、研究をさせていただきたいと、かように思っております次第であります。

また、青少年の問題ということは、私でございますか、あれは。私は、これはやはり教育というのは、当然この学校教育というのは極めて重要なんですけれども、しかしその基本はやはり家庭教育にあるんではないかと、こんなふうに思います。何と言いますか、確かに最近の子供は、昔の子供に比べて礼儀が正しくないと、いろいろ問題がありますけれども、違った意味でリラックスしたい点もあることはあるんでありますけれども、やはり何と申します

か、儒教の思想と申しますか、師を敬うとか先輩を敬うとか、それから両親を敬うとか、そういったような傾向が非常に希薄になっていくというふうなこと、これはやっぱり大いに反省しなければいけないんじゃないかというふうに思います。学校教育が悪いんですけれども、やはりそれは親御さんの責任も多きにあるんではないかと私は思うのであります。考えてみますと、ちょうど、何と申しますか、今の子供さんをお持ちになっていらっしゃる親御さんの年齢というのは、ある意味においてはかなり混乱のときでありまして、そういった意味における親御さん自身をまず教育しないといけないんじゃないかといったような嫌いも、なきにしもあらずではないかというふうに私は思うわけであります。そういったような意味において、まず家庭のしつけと申しますか、それが基本であると。そしてそこで徳育を、しっかりしたしつけをしてもらって、そして今度は学校で、やはり徳育、知育、体育をやってもらって、そんなようなことがやはり一つの道徳教育につながるんではないかと、こんなふうに思っている次第でございます。以上でございます。

○教育次長（古谷正夫君） 自席からお許しをいただきまして、二点について御答弁させていただきます。

最初に、あいさつの関係でございますが、積極的に進めるというふうな御指摘でございます。先ほど申し上げましたとおりでございますが、さらに指導効果を高めるよう、学校長を通じて指導していきたいというふうに考えております。

二点目の、学校に対しての国歌、国旗の斉唱の励行でございますが、学校行事の折等に国歌の斉唱や国旗の掲揚が行われるよう、学校長に要望していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○八番（林田 武君） 三回目の質問をいたします。

部長さんでいいんですけれども、その職員のプロジェクトを、今国際化に向かってつくっているという市長さんの御答弁でございますけれども、そのプロジェクトができてから、見せていただいてその後意見を申し上げるのが筋でございますけれども、いつごろそういったプロジェクトができ上がるのか、ひとつ教えていただきまして、それだけで私の質問を終わらせていただきます。

○企画財政部長（内田和雄君） 今、プロジェクトを組んでいろいろ研究していただいておりますが、大体九月末には上がってくるというふうになっております。よろしくお願いいたします。

○議長（村尾栄次君） 次に、十八番小野沢 久君。

（十八番 小野沢 久君登壇）

○十八番（小野沢 久君） それでは、さきの通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

まず、市の将来像ということでございますけれども、この件についてはきのうも井上さん、あるいはきょうも林田さんが質問をいたしましたけれども、市長が六月の定例議会で所信表明いたしました。あれを聞き、また再三読みましたが、大変よくできているというか、うまくできているというか、全体を把握しているわけでございますけれども、どこことなくつかみにくいところもあります。抽象的でないとなかなか難しいところもありますけれども、現在のこの福生市を見た場合には、新交通システムからも外れたり、近隣の市町に大きなスーパーが来たりして、商圏もますます厳しくなってくる。そういう中で、ある部分では高層マンションがどんどんできてくる、あるいは基地からの交付金も先が見えてきたような厳しい状況の中で市の運営を続けていかなくてはならないわけでありますけれども、そういう中で、市長の描く福生市のイメージということを、まさに抽象的で結構でございますので、所信表明を一步進めた形で説明をしていただけたらと思います。

それから、市のイメージアップということでございますけれども、先ほど来、国際化の問題が盛んに言われております。そういう中で、市長にお任せするだけではなくて、我々議員もそれなりの意見を言いながら参考にしていただける部分があればそれを行政に生かしていただくのも方法かと思ひまして、今回はその外国人に親しまれるまちづくりということで、道路標識や、あるいは公共施設等の案内板、あるいは窓口等にも横文字表示をして行ければ、若干なりともそういう面での近づきができるんじゃないかと思ひます。きのうも質問の中でごみの問題もありましたけれども、そういうことも、やっぱりそういう表示ができれば問題も、トラブルも減ってくると思ひますので、一番手近な問題、すぐにできる問題ではなかるうかと思ひますので、その横文字表示ができるかどうかという点をお尋ねいたします。

それから、市のPRということでございますけれども、これは今まで何回か、予算や決算で言っておりますけれども、なかなかこの福生市ということ、よそに行って名刺を出してもふっさと読んでもらえることが少ないということ

は、皆さん他市に行ってよく感じることはなかるうかと思ひますけれども、少しでも市の名前を売り込んでいくのも、やっぱり我々の仕事でもあり、また職員の仕事ではなかるうかと思ひます。

そういう中で、以前、テレホンカードが開始したところでございますけれども、独自性を持たせるということであったことがあったんですけれども、いまだにそれができなかったということが非常に残念なんですけれども、実は、これは東大和市で最近できたんですけれども、二枚のテレホンカードをセットにして、このテレホンカードは大和市のPRと市民の皆さんに市への愛着を深めていただくことを目的にして作成されたということをつくったんですけれども、これからは二番煎じになるわけでありますけれども、このようなものを一番先に福生市としてつくっていただきたいかった。非常にそれは残念なことですが、かと言って今からでも遅くはないと思ひますので、その辺の実現ができるかどうか。

せんだって議会事務局で、委員長さん宛の名刺で七夕の絵がカラーで刷ったやつがございましたけれども、そういう面では今各市がやっております。大和では絵入りの名刺が百枚が二百円、府中市は、これは一番早かったんですけれども、百枚四百円で五種類をセットしてあります。青梅市も最近では三種類ほどつくって、台紙を無料で、あとは刷る方を、自分の名前の部分は自分でということでありますけれども、いろいろな方法がありますので、すべて無料というわけにはいかんだろうけれども、名刺、あるいはテレホンカード、あるいはオレンジカードを組み合わせたような、市をアピールするようなものができるかどうかという点、お願いいたします。

それから、横田基地についてでございますが、ゆうべも本当ににぎやかに、夜遅くまで熱心に飛んで、あれだけ飛ぶともうあきれて物が言えないと。けさ早くミッドウェイが通航したわけで、また今晚から静かになると思ふんですけれども、あれだけの騒音がやっぱりうるさくなかったという議員さん、きょうこれだけでも恐らくあれがうるさくないと思う方はいないと思ひます。常日ごろ、基地があるということが比較的、余り感じない部分があるんですけれども、あの飛行機が飛ぶときはやはり本当に憎らしくなってくるというか、本当に迷惑千万、ちょっと神経質な人では全くおかしくなってくるような騒音であります。フィリピンのクラーク基地からの移駐の問題もありまして、市長さんも一生懸命をそれに対して抗議をしたということも、昨日来の質問でわかっておりますが、東京防衛施設庁、あるいは基地司令官に中止要請をしたということでございますけれども、黙っていると何が起こるかかわからない、言い

なりになってくるような気がいたします。移駐の問題も、やっぱり力強くノーの部分はないか、ということはないし、今までどおりのような中止要請だけでは一向に進まないような気がします。声を大きくして反対をすれば、三宅の問題もありますが、やっぱり大きな行動を取らないと、どんどんどんどん基地が拡張されてくるような心配もありますので、これからは抗議の方法について、例えばもう外務省や防衛庁の長官、あるいはそういう面では地元選出の国会議員たちもどんどん使って、そういう中止要請をした方がよろしいんじゃないかと思っておりますので、そこら辺の対応と見解をお願いいたします。

それから、社会教育の関係でございますけれども、スポーツ基金について。これは年々スポーツが盛んになるわけでありまして、福生市を代表して、あるいは東京都の大会、関東大会、あるいは全国大会に行くような機会も出てまいります。また、そういう機会が出てくるのは、せっかく社会体育の設備を増強していく部分でも寂しい部分がありますので、そういった場合に、選手の交通費とか宿泊費について、すべてを個人で持っていくというのは大変なことであります。昨年、福生市の職員でつくっておりますソフトボールのチームが、東京都の代表で全国大会に行きましたけれども、そのときも大分苦勞してお金を集めたという経過がありますので、そういうときのために基金の制度をつくっておいて、どういう制度がいいかということはこれからその中で専門的な方が考えていただければいいことであります。基金的なものをつくって、そういう場合においてある程度の助成をしていくということが、これから大切ではなからうかと思っておりますので、お願いいたします。

それから、次にジュニアスポーツの団体への助成でありますけれども、今の体協に加盟している団体については、体協を通じて補助金が出ております。しかしながら、青少年の多くの、熱心なボランティアの指導者によって支えられております青少年のスポーツ、少年野球とか少年サッカーとかいろいろありますけれども、それについては全然補助がなされていないわけでありまして、せいぜい大会にグラウンドの使用が免除になるという、使用料が免除になるという程度のことです。年々大会を行っていく中で、大会の参加費もかかってまいりますので、そういう青少年に対する助成、あるいは父母の負担の軽減のためにも考える時期ではなからうかと思っておりますので、格段の御配慮をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

次に、地域体育館についてでございますけれども、これももう何人もの議員さんが言われて、それなりの方向づけ

の答弁もされております。実は、熊川体育館ができてから、私も再三あそこに行って、バドミントンをしに行っているんですけども、いつも盛況で、ときには一時間ぐらい待たなければいけないという状況であります。それはやっぱり、なぜあれが盛況な使われ方をしているかというところ、やっぱり個人使用を中心しているということが、やっぱり今の体育館の市民体育館との違うところでありまして、親子でやっぱり知り合い同士がちょっと集まってできるところに、大変便利な要素があります。それで、担当がちょっと聞けばすぐに教えてくれるというところがうけて、あれだけ盛況になっているわけでありまして、そういう意味からしても加美平の方から熊川に行くのは大変、そういう面では遠いこともありまして、線路の東側にもう一個ということで、お金もかかることではありますが、そういう面では今の市民体育館が総合体育館ということから考えると、若干問題もあるうかと思っておりますので、それらも含めた形で検討していただいて、今一つ地域体育館を建設していただければと思いますので、その辺の対応をお願いいたします。

次に、ポニー公園の設置ということでございます。これは大変悩んだんですけども、ポニー公園がいいのかポニーセンターがいいのか、あるいは個性豊かな公園ということがよかったのか考えたんですけども、たまたま私が、江戸川区と葛飾のこういう公園をたまたま話がありましたので、議会事務局に言って資料を取り寄せていただいたわけですが、なかなか、昔は、私どもの小さいころはどこに行っても牛やヤギがいたりして、動物と親しむ機会があったんですけども、それがなかなか今はできなくなっている。羽村の動物園に行けば、ウサギや牛ぐらひはさわれますけれども、なかなか馬に乗る機会というのはないのが状況でありますので、動物と親しみ触れ合いながら自然の中で過ごすということが、大変、情緒ある子供たちを育てる上でも大切ではないかと思っておりますので、個性ある公園づくりということを含めて、その辺の御検討をしていただけるかどうかという点をお願いいたします。

それから、清掃行政の関係でございますけれども、あのリサイクルセンターに今年度は圧縮機が導入されました。関係者の御努力がございまして、他市からもあれについては視察に参ったりなんかしていることを聞いておりますので、大変うれしく思っております。いずれにしても、あれだけのごみ穴をこれから他に探すということは全く不可能に近いことであるので、あの穴を大事に、長く使うということから考えれば、大変結構なことではなからうかと思っておりますけれども、今まで何回となくリサイクルセンターの関係、議会をお願いしながら改造、あるいは改善をしてい

ただいてまいりました。天窓や、あるいはひさし、ここでシャワー付きの休養室もできましたけれども、いかんせんあの選別台を見ると、もう危険の上ない状況であります。最近のこのリサイクル場も、大体テーブル式で回転をいたしておる状況です。あれですとちょっとつまずいても下に落ちてしまうような問題もありますので、そこらのところを前々から言っておりますけれども、長期的な展望に立って改造をしようとして、安全に仕事をしながらごみの穴を長く使える形をつくっていただきたいと思っております。その見解と、市長さんになってからいろいろ市の施設すべてを回って、職員からその説明を聞いたということも聞いております。その中で、リサイクルセンターについても市長さんが議員になったときに一緒に一度は行っているはずですが、それから見れば大分変化していると思うんですけれども、そのリサイクルセンターを、最近行ったと思いますが、それについての感じをどういふような感想を持ったかということも合わせてお願いをいたします。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○市長（石川彌八郎君） 小野沢議員さんの一般質問に御答弁申し上げます。

最初に、市の将来像についてでございますが、今後の市の全体像としてどうとらえているかということがあります。御質問にありましたように、福生市をこれからどういふまちにしていくかにつきまして、さまざまな角度から検討し、議論し、集約し、合意を得ていかなければならない課題でございます。

御案内のように、この問題につきましては福生市の基本構想としてまとめていく予定をしておりますけれども、その前段階として四つばかりの大きな柱の検討が必要だと考えております。一つは現代の潮流、トレンドといった点で価値観の多様化や物と心の調和、アメニティーといったことがあろうかと思っております。それから第二といたしまして、福生市の置かれていた行政環境といった点で、国・都や近隣各市の今後の発展と福生市の位置や役割といったことがあろうかと思っております。それから第三は市の歴史や現況や課題、例えば市民の定着性が低いこと、快適な環境、人口、人口密度等を含めて、明らかにして見つけ直すことが必要であらうかと思っております。第四といたしましては、福生市が持っているよき人々や、あるいは例えば多摩川堤の桜、七夕等のもの、いわゆる財産やあるいは国際的情報などといった資源の押さえが必要であらうかと思っております。これらの検討の中からまちづくりの基本的考え方、まちの将来像

を明らかにし、行うべき施策を計画化する仕事を総合計画の策定として、議員さん、そして市民各位の御意見をいただきます。昭和三十五年度からその方向でまちづくりを進めていきたいと考えております。

私といたしましては、六月に所信表明で述べましたが、いわゆる快適な環境を持った美しいまち、国際化された独自性のあるまちをと、いろいろ思うところでございますけれども、これらも含め提案をさせていただきます。また御提案をいただきながら、福生市というまちがすばらしいまちであると言われるように努力してまいりたいと、かように考えておる次第であります。

それから、この市のイメージアップということでもありますけれども、外国人に親しまれるまちづくりについてというところで、福生というまちの独自性、ユニークさを産み出すための資源といたしまして、国際化という視点から考えると、福生市はよい条件を持っていると考えております。したがって、現在職員による国際化のプロジェクトチームを編成し、研究させておりますけれども、近く報告書が出ますので、御提案の点も含め可能なことなら施策として取り上げ、実施していきたいというふうに考えておる次第であります。

それから、市のPRについてというところでございますけれども、御提案の点、大変有意義であらうかと思っております。今後、具体化できるものから取り組んでまいりたいと存じますし、総体的には今後、CIの手法等も取り入れて福生市のPRの問題も考えていきたいと、かように思っております。いろいろと御指導いただければと思います。

それから、次に横田基地について、フィリピン、クラーク基地からの移駐とE-2Cの訓練飛行等についてということでございますが、クラーク基地からの移駐ということで、E-2Cの訓練飛行等について御答弁をさせていただきますが、基本的には小野沢議員さんの御指摘のとおりであると私も考えております。また、要請行動等についても、今後必要に応じ外務省等にも伺いたいと考えておりますので、よろしくお願いをいたしたいと存じます。

次の、この社会教育につきましては、これは教育委員会から御答弁を申し上げます。

それから、次のポニー公園の設置ということでございますけれども、市内の公園はどの公園も同じような公園で特色がないとの御指摘ですけれども、私も同感でございます。特色のある公園の一例といたしまして、ポニー公園を設置したなどの御提案ですけれども、当市には大きな公園はなく、周辺には住民が接近しておりますので、動物を飼うとなりますと尿の処理とか、あるいは悪臭、あるいは害虫の発生等、いろいろと問題が起ることが予想され、な

かなか難しいのではないかというふうに思われます。特色のある公園としては、本年度整備する中福生公園は、湧水を生かしまして公園として整備いたしますので、今までの公園とは一味違ったユニークな美しい公園ができるのではないかとふうに思っております。また、既設の公園のうち、開園後年数が経過し施設が老朽化し、改修をしなければならぬ公園も数多くありますので、計画的に改修を行うとともに、でき得る限り特色を持たせた公園となるように整備をしていきたいと、このように思っております次第であります。

それから、清掃行政についてでございますけれども、リサイクルのこの長期的対応についての御答弁を申し上げます。大変御心配をかけているところでございますけれども、御指摘のとおり、現在のリサイクルセンターは五十四年四月から稼働して老朽化して、耐用年数も経過していることから、現在内部で検討しているところでございますけれども、六十六年度ぐらいにはリサイクルセンターの改築ができるよう、関係機関とも調整しながら、さらに検討してまいりたいと考えておるところでございます。

私もついせんだって、そうですね、六、七年ぶりにリサイクルセンターに参りましたけれども、みんな大変真っ黒になって働いていらっしゃるようで、しかもほかにないあいった機械も昨今導入いたしましたので、何と申しますか、あちこちの市からも視察に見えるようで、久し振りに見まして大変感激をしたような次第でございます。

以上で小野沢議員さんの答弁とさせていただきます。

○教育次長（古谷正夫君） 自席からお許しいただきまして、社会教育についての御質問に対して御答弁申し上げます。

初めに、スポーツ基金についてでございますけれども、現在青梅市が、民間の会社からの寄附によりましてスポーツ振興基金を設置しております。その内容でございますけれども、市内で活動する個人及び団体が、市または主要団体を代表して各種大会に出場するときの宿泊費及び旅費等の直接必要な経費の援助を実施しております。さらに、団体が広く市民を対象とした体育の向上、普及を目的とする事業、あるいは都大会以上の大きな大会を主幹する場合の運営費の援助及び各種大会等における優秀成績を上げた個人及び団体に対する表彰を、基金で実施しております。

次に、ジュニアスポーツ団体への助成についてでございますけれども、これも府中市を初め何市かで、要綱等に基づき実施しているようなわけでございます。御質問をいただきましたこの二点につきましては、担当職員とも検討しているところでございますが、改めて御提言をいただきましたので、その方法論等を踏まえてさらに検討させていただきます。

だきたいと思っておりますので、今しばらく時間をいただきたいと思いますとおる次第でございます。

次に、地域体育館についての御質問でございますが、昨日上野議員さんの御質問にも御答弁申し上げましたとおり過去にも同趣旨の御質問をいただいておりますが、基本的な考え方としては変わっておりません。みずから健康を保持するための体力づくり、家族のみんなで楽しむファミリースポーツ等が、今では市民の関心事ともなっておりますので、いつ、どの時期というふうな明確な御答弁はできませんけれども、福生地区にも地域体育館が建設できるよう努力してまいりたいと考えておりますので、よろしくどうぞお願い申し上げます。以上でございます。

○十八番（小野沢 久君） いろいろ、大体思っていたような答弁をいただいたわけでありましたけれども、最初の市長の考え方については、これは抽象論でいかないたいとなかなか、基本構想の絡みもあって難しい時期ではなからうかと思っております、ありがとうございます。

次に、市のイメージアップの関係も、プロジェクトで考えて九月ということでございますので、手近な一番、大してお金もかからずできることでありますし、一番身近な方法ではなからうかという気もいたしますので、その辺も含めて実現可能な方向に向けて取り組んでいただきたいと思います。また、これは地元出身の都議会議員も、過日の、我が党ではございませんが、田村議員さんですけれども、やっぱり国際親善、国際交流ということで、都議会でやったというような議事録等も拝見をいたしましたけれども、都道等、東京都のかかわる部分についても含めた形での取組をしていただきたいと思いますので、それは期待をしながら要望させていただきます。

あと、市のPRの関係ですけれども、今の答弁ですべて検討ということになっておりますけれども、きのう宮沢議員さんも、駅の通路に物産を展示したなんていうことも言われましたけれども、八王子市なんかを見ますと、本当にあの広いところに市内のすべての産業の関係のものを一堂に集めてあるし、また東村山なんかでも、市内のやりやそういうお酒だとかお人形とかというものをロビーに展示をして宣伝をしている状況であります。本当にそういう面では、福生という形で見るとよそに持って行くというようものが少ないという中でありまして、やっぱり率先してその、今私が提案したような絵入り名刺やテレホンカードやオレンジカードのようなものは、大してお金のかかることでもないし、市内の風景を見ましても、市政要覧なんかを見ると大変あちこちきれいなところがありますので、写真も撮りようで大変きれいに写ることもありますので、やっぱり早急に、議会がそういう面でも先行したわけであ

りますので、取り組んでいただきたいと思っています。

基地の關係でございませけれども、これから中止要請等の抗議をやるについても、幅を広げてということで御答弁をいただきました。それから、昨年はブルーインパルス曲芸飛行は中止になりましたけれども、ことしも日米友好親善祭の關係が十月に予定されているやに聞いておりますけれども、それについても曲芸飛行がまた、ブルーインパルスでなくてもあるということがあると困りますので、六月議會でも市長さん、議員の答弁の中で答えておりますけれども、それから変わるとは思いませんけれども、特にこの時期、西ドイツのイタリア空軍の事故や、あるいはフィンランド空軍の事故、あるいは九月二日の三沢のF-16の事故等もありますので、やっぱりこの時期にもしそのようなことを強行するようなことがあれば、非常に市民感情を逆なでするような状況、日米親善もまた一歩遠のくのかなという気もしないでもありませんので、市長さんのその親善祭における飛行機の關係に対する考え方をお願いいたします。

あと、社会教育の關係、今の基金とジュニアスポーツのことは、担当と検討ということで、しばらく時間をいただきたいということとでございますので、ぜひとも、すぐにやるということではなくて、やっぱり市長さんがかわったということも含めて、いろいろな部分で対応していただきたいと。パターンにこだわらず、必要なものは必要とするということとでございますので、十分研究をしていただいて、なおかつ不公平が出ないような形の取り組みをやっていたきたい。やっぱり余りボランティアの人が苦勞しながらやっていったんでは、なかなかいい成果も上がらないし、長続きもしませんので、やっぱりそういうことも含めて検討していただきたいと思っています。これはそういう答弁でございますので、いい答えが出るのを楽しみに待っていたいと思います。

あと、体育館の關係でございませますが、現在の市民体育館も総合体育館にはなっていないんじゃないかと思うんだけれども、やっぱりあれもぼちぼち、そういう面から考えると検討しなくてはならない時期ではなからうかと思ひますので、地域体育館についてはそういう形で検討、あるいは研究ということでありませから結構でございますが、今の市民体育館についても何らかの考え方、あるいは方向というものを考えているかどうか、ひとつお願いいたします。次に、ポニー公園の關係でございませけれども、これも通告してから時間があつたんで、江戸川の關係等もそれなりに資料は用意をしていると思うので、本来は實際私もこれを見に行つて質問をすればもう少し具体的な話がでる

んですけれども、實際にはまだ見てない、パンフレットの状況でありますので、理事者の方で若干なりとも数字的なことで調べたものがあれば、それを聞かせていただきたいと思ひます。

要は、やっぱり動物と親しむということとは、やっぱり情操教育の面から大変必要なことでありますので、ものをつくっておけばいいというんじゃなくてやっぱり、例えば動物であれば飼わなくてはいけない、えさもやらなくてはいけない、そういうこともやっぱり体験していくことも必要であります。すぐそれを、やれ臭いが出る、場所がないということの発想では、これは全く今までと同じ発想なわけです。ですからそこを、そういう結論が出るにしても、途中がやっぱり大事であつて、検討の方法、あるいは研究の方法をいろいろ考えて、なおかつそういう結論が出たんであれば、それはいたし方ないことでありますけれども、やっぱりそういうことではなくて、市長さんの言うパターンにこだわらずでございませから、やっぱりいろいろな角度からの研究をする必要があると思ひます。そういう意味も含めてお願いをしたいところでありませけれども、これは江戸川とその葛飾の關係の資料等で調べた範疇のこと、部長の方で結構でございませるので、聞かせていただければと思ひます。

それから、清掃の關係ですけれども、実施計画では六十五年までしか載ってませんので、六十五年に焼却炉をつくり直すということになっておりますけれども、今の答弁では六十六年改築ができるように検討ということとでございませるので、やっぱりどうしてもごみは出るわけですから、最終的にはあそこの世話にならなくちゃならないということがあるわけですから、つくり直すとすれば、やっぱりなるべくいいものを、安全なもの、処理能力のあるものをつくっていただきたいと思ひます。これは要望しておきます。

ですから、二、三のことになりますけれども、お願いをいたします。

○議長（村尾栄次君） 二時十分まで休憩いたします。

午後一時五十六分 休憩

午後二時 十分 開議

○副議長（宮沢良一君） 休憩前に引き続き會議を開きます。

○市議長にかわりまして議事を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長（石川彌八郎君） 小野沢議員さんの御質問でございました。

この基地開放祭の件でございますけれども、昨日も御答弁いたしましたけれども、基地開放祭にF-15とかF-18等の航空デモンストラクションが予定されているわけでございますけれども、危険を伴う飛行はともかく避けてもらうようにと、何といたしましたが事故だけは絶対ないようにというふうなことは申し入れるつもりでございますのでよろしくお願いいたしたいと存じます。

○教育次長（古谷正夫君） 自席からお許しいただきまして、市民体育館の問題について御答弁させていただきます。

市民体育館が検討する時期ではないかというふうな御質問でございますが、御指摘のとおり、四十八年に建設いたしました十五年経過して、非常に老朽化してございます。そういうふうなことから、この時期建て替え等いろいろあるわけでございますが、福生地区に地域体育館を建設する時期に見合わせまして、合わせて検討していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

○建設部長（森田 進君） 自席からお許しをいただきまして、ポニー公園に関連いたしました、江戸川区と葛飾区というふうな形で、調べた内容についてという御質問でございますが、葛飾区のポニー公園について調べておりますのでその辺について御答弁申し上げます。

まず、設置目的でございますけれども、青少年に対する動物愛護の心を養わせて、なおかつ基礎体力をその中からつくっていくと、そういうふうなことがねらいで設置されているようでございます。概要でございますけれども、公園の面積といたしましては四万五千平方メートルという大変広い公園の中でございまして、そのうち動物の広場といたしまして三千平方メートルの面積を確保いたしまして、その中に八頭のポニー馬でございまして、馬を飼育しておると、そういう内容でございまして、周辺の環境といたしましては付近に都の清掃工場等がありまして、周辺住民とのトラブル等については特にないと、そういうふうなことを聞いてございます。管理につきましては、教育委員会の方が管理をしているようでございますが、実際には外郭団体に委託しておると、そういう内容でございす。それから制度といたしましては、小中学生かと思っておりますけれども、対象にいたしました、個人だとかあるいは団体で登録をしていただきまして、ポニーという馬の飼育、訓練と言いますか、すべて、体験をさせまして、その中で乗馬等もさせておるという内容でございます。なお、予算でございますが、六十三年度の数字で見ますと二千四

百三十万円ほど予算を計上してあるようでございます。以上でございます。

○十八番（小野沢 久君） いろいろ、市長の方からも答弁いただきましたけれども、いずれにしても市長が言っている多様な市民の価値観の中から、適正な計画をパターンにこだわらず選択をしていくべきだと考えている。所信表明の中に言っておりますけれども、この姿勢はやっぱり貫いていただいて、やっぱりいろいろな方面の意見を聞きながら、ユニークのある行政を進めていただきたいと思っております。それが一つ。

あと、今のポニー公園の関係、部長の方から数字がありましたけれども、江戸川の方についても河川敷につくってありますものの数字があるんですけれども、実際には、これは一万平方メートルぐらいであります。ポニーの関係するものは絵からするとその半分以下の面積になっておりますけれども、実際には個人でそのポニーに乗っているのが、年間で四万四千人。非常に多くの方が乗っていると。なおかつ、そのポニーが地域のお祭りだとか、あるいは障害者の施設だとかというところに行つて、そこでもやっぱり同じ形で乗馬や触れ合いをしているという面で、非常に利用価値があると思います。検討、これからしていただけたらと思いますけれども、福生の中で、すぐに臭いとかいう問題も出てくるかと思うんですけれども、かに坂公園を見ても、これから質問が出てまいりますけれども、河川敷の関係なんかもありますが、そういう面では面積的にはさほど問題はないような気がしますので、これについてもまた別の機会に質問をさせていただきますけれども、十分検討していただいて、意のあるところを汲んでいただきたいと思ひます。以上で終わります。ありがとうございます。

○副議長（宮沢良一君） 次に、十一番松山 清君。

（十一番 松山 清君登壇）

○十一番（松山 清君） 一般質問をさせていただきます。

まず、第一番目の質問は、消費税についてであります。

御承知のように、大型間接税は昨年、当時の中曽根内閣が売上税という名称で導入しようとしていましたが、選挙公約違反は許さないという国民の大運動で廃案になったものです。ところが、また化粧直しをして、消費税という名称で導入しようとするものであります。しかも、売上税のときには、当市議会におきましても全会一致で反対の意見書を